

高知県福祉活動支援基金助成事業

鹿内講師による
本セミナー
高知県
初開催!

入場
無料

事前
予約制

専門用語を使わない 障がいのある子の

『親なきあと』の『お金』の話

～親として『行動』したこと『サキヨミ』すべきこと～

2019年 **8/31** 土

時間 開場10:00 開演10:30 終演12:00

会場 高知県立ふくし交流プラザ
2F(高齢者能力開発室)
(高知県高知市朝倉戊375-1)

定員 先着50名様(事前予約制)

※セミナー終了後、後日の個別相談の予約を承ります。
(お子様が16～19歳の方を優先とさせていただきます。)

講師

■日本相続知財センター本部・札幌 専務理事
■相続知財鑑定士・相続診断士

しか ない こう し ろう
鹿内 幸四郎

親なきあと問題のみならず、相続対策の専門家として、セミナー受講者は全国に3万人を超えており、『専門用語を使わない』セミナーとカウンセリングには定評がある。『争続・あらそうぞく』にならないための『相続の予防医学』を全国に広めている。
ダウン症の娘16歳の父親でもある。
北海道出身。東京在住。



こんな方必見!ここに答えがあります!

子どものこと

- 16～19歳の子がいる(未成年のみの対策あり)
※2022年4月より18歳で成人となります
- 子どもが成人していても準備できることを知りたい
- 『きょうだい』はいるが頼れない・負担をかけたくない
- 子ども名義の定期預金・不動産がある
- 子どもが『ひとりっ子』

自分のこと

- 前妻の子がいる
- 夫婦共有の不動産を所有
- シングルマザーの注意点
- 人生100年時代。長生きした時の生活費が心配
- 自分の年金だけで生活できる?

親兄弟姉妹のこと

- 親が認知症になったらどうなる?
- 親の土地の上に、自分の家が建っている
- 実家が空き家になっている・空き家になりそう
- 親の介護が始まっている・始まりそう
- 墓と仏壇、どうする?
- 相続税が心配



セミナー参加者全員に
最新版『親心の記録』を
プレゼント!

主催 / 一般社団法人 高知相続あんしんセンター (日本相続知財センター高知支部)

後援 / 高知県、(社)高知県社会福祉協議会

参加申し込み方法は
裏面をご覧ください。



日本相続知財センターは「親心の記録」を寄贈しています！

「親心の記録」とは



障がいを持った子供を持つ親御さんが、「親なきあと」に子供を支援してくれる方々に、子供の情報(身上監護のみ)を書き留めて託すための冊子です。

突然、親がなくなり、子供が一人残される……といったケースもあるかと思えます。親心の記録を見ることにより、周囲のあたたかいサポートを受けながら、自分らしく生きていけるように「将来の道しるべ」の1つとして、ご活用いただけます。

障害ある子へ「親心の記録」
相続知財センター札幌に感謝状

保護者がなくなった後、障害のある子どもが適切な支援を受けられるように、必要な情報を記すノートを開発した日本相続知財センター札幌には、北海道特別支援学校校長会などから感謝状が贈られました。

ノートは「親心の記録」として、A4判30ページ。保護者が子どもの氏名や配偶が必要なことを記入し、親族や利用する福祉施設などに渡すべく、センターの前理事長が2010年に作り、道内を中心に寄贈してきた。

（中萩 展太郎）

昨夏の改訂を機にノートを増やさせようと、昨年12月、道立特別支援学校全19校の児童・生徒計約5,200人に、1冊ずつ贈った。21日は道庁別館で、センターの中野幸一理事長が道特別支援学校校長会の五十嵐利裕会長から感謝状を受け取った。

中野理事長は「障害があっても安心して人生を営める手助けをしたい」、五十嵐会長は「子どもの将来を考えると良い機会になり、嬉しかった」。

五十嵐会長（左）から感謝状を受け取る中野理事長（道教授提供）

「親心の記録」全国に拡大

日本相続知財センター

札幌で10年から配布 20万部に



「親心の記録」を持つ親御さん（図解）と日本相続知財センター札幌支店のスタッフ

「親心の記録」を開発して10年が経ち、札幌から全国に拡大している。障がいのある子どもを持つ親が、自らの死後、子どもが適切な支援を受けられるよう子どもの成長歴などを書き留めた内容で、発行部数は昨年12月に20万部を突破した。知財センターはさらなる普及を目指し、インターネット上で募集を呼びかけている。（佐々木 博）

「親心の記録」を開発して10年が経ち、札幌から全国に拡大している。障がいのある子どもを持つ親が、自らの死後、子どもが適切な支援を受けられるよう子どもの成長歴などを書き留めた内容で、発行部数は昨年12月に20万部を突破した。知財センターはさらなる普及を目指し、インターネット上で募集を呼びかけている。（佐々木 博）

「親心の記録」を開発して10年が経ち、札幌から全国に拡大している。障がいのある子どもを持つ親が、自らの死後、子どもが適切な支援を受けられるよう子どもの成長歴などを書き留めた内容で、発行部数は昨年12月に20万部を突破した。知財センターはさらなる普及を目指し、インターネット上で募集を呼びかけている。（佐々木 博）

お申し込みは **2** つの方法から選べます。

オススメ

1 WEBで

お申し込みフォームから簡単に申込できます。

携帯にかざすだけ



https://peraichi.com/landing_pages/view/kochisozoku

2 ファックスで

※連絡先は、電話かメールかご希望の連絡先をご記入ください。

氏名	お子様の年齢
連絡先(電話orメール)	参加人数

上記項目をご記入の上、下記番号へファックスください。

FAX.088-821-7790

\$ 一般社団法人 高知相続あんしんセンター

ここは なごやか

☎ 0120-960-758 FAX.088-821-7790

